

2019年2月期 第1四半期 (2018年3月1日～2018年5月31日)

決算説明資料



©2018 スタジオ地図

2018年7月13日(金)

 TOHO

2019年2月期 第1四半期 営業概況

	2018年2月期 (2017年3月～5月)	2019年2月期 (2018年3月～5月)	前年同四半期比	増減率
営業収入	71,002百万円	66,210百万円	▲4,791百万円	-6.7% ↓
営業利益	17,440百万円	12,750百万円	▲4,689百万円	-26.9% ↓
経常利益	17,578百万円	12,913百万円	▲4,664百万円	-26.5% ↓
親会社株主に帰属する 四半期純利益	12,163百万円	8,087百万円	▲4,075百万円	-33.5% ↓

【第1四半期の営業概況】

主力の映画事業において、共にシリーズ新記録となった『映画ドラえもん のび太の宝島』『名探偵コナン ゼロの執行人』等の定番のアニメ作品をはじめ、東宝東和配給『ボス・ベイビー』等が高稼働したものの、特に邦画実写作品でヒット作がなかったことに加え、前年同期に『シン・ゴジラ』のパッケージ販売があったことの反動も大きく、減収減益。

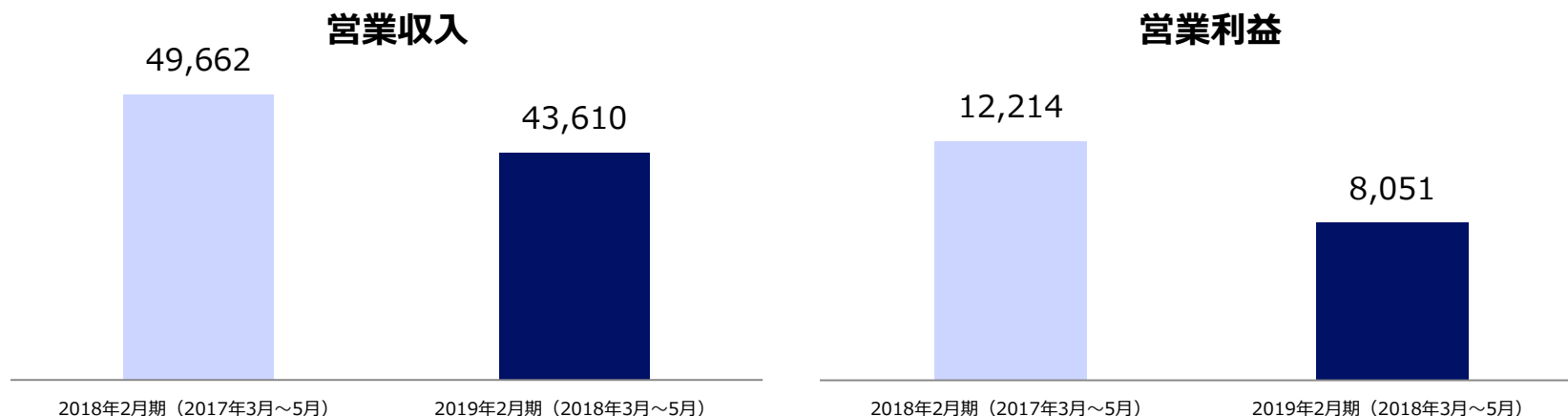
演劇事業では、『Endless SHOCK』『1789 -バステューユの恋人たち-』等の話題作が盛況となり増収となるも製作費増により減益。不動産事業では、道路事業、不動産保守・管理事業で増収となったが、不動産賃貸事業で日比谷シャンテのリニューアル費用を計上したこと等により、減益。

全社では、非常に好調だった前年の第1四半期に比べ、減収減益。

セグメント別業績一覧

	営業収入 (単位:百万円)			営業利益 (単位:百万円)		
	2018年2月期 (2017年3月~5月)	2019年2月期 (2018年3月~5月)	増減率	2018年2月期 (2017年3月~5月)	2019年2月期 (2018年3月~5月)	増減率
①映画事業	49,662	43,610	-12.2% ↓	12,214	8,051	-34.1% ↓
映画営業	15,306	13,153	-14.1% ↓	4,308	2,540	-41.0% ↓
映画興行	23,847	21,833	-8.4% ↓	4,993	3,819	-23.5% ↓
映像事業	10,508	8,623	-17.9% ↓	2,912	1,692	-41.9% ↓
②演劇事業	3,745	4,096	9.4% ↑	1,110	743	-33.1% ↓
③不動産事業	16,563	17,370	4.9% ↑	4,949	4,803	-3.0% ↓
不動産賃貸	7,535	7,194	-4.5% ↓	3,264	3,182	-2.5% ↓
道路事業	6,526	7,309	12.0% ↑	1,464	1,354	-7.5% ↓
不動産保守・管理	2,501	2,866	14.6% ↑	221	266	20.4% ↑
④その他事業	1,031	1,132	9.8% ↑	48	74	53.8% ↑

セグメント別業績【映画事業】



(単位：百万円)

業績分析 (増減要因)

- 映画営業事業では、『名探偵コナン ゼロの執行人』が興行収入84億円を超え、『映画ドラえもん のび太の宝島』も興行収入53億円を超えて、共に興行収入記録を更新し、業績に貢献。
しかしながら、邦画実写作品でヒット作品に恵まれず、また、東宝東和配給作品は『ボス・ベイビー』が興行収入34.3億円と健闘したものの、『SING／シング』（興行収入51.1億）、『ワイルド・スピード ICE BREAK』（興行収入40.5億）等のヒットがあった前年に及ばず、減収減益。
- 映画興行事業では、当社グループ配給作品に加えて、洋画では2月から続映の『グレイテスト・ショーマン』（20世紀FOX）のほか、『リメンバー・ミー』『アベンジャーズ／インフィニティ・ウォー』（ウォルト・ディズニー）等のヒット作品があったものの、興行収入124億円を超えた『美女と野獣』（ウォルト・ディズニー）のようなメガヒットがなく、減収減益。
- 映像事業では、アニメ制作事業では映画『GODZILLA 決戦機動増殖都市』や『名探偵コナン ゼロの執行人』等に製作出資。出版商品事業では『名探偵コナン ゼロの執行人』等のアニメ作品のパンフレット・キャラクターグッズが好調に推移。パッケージ事業において『舞台「刀剣乱舞」ジヨ伝 三つら星刀語り』や映画『あさひなぐ』が好調に推移したが、今年の『シン・ゴジラ』のパッケージ販売の反動が大きく、減収減益。

(興行収入は2018年6月末時点)

映画 - 主要稼働作品 -

東宝(株)配給作品（興行収入10億円以上）

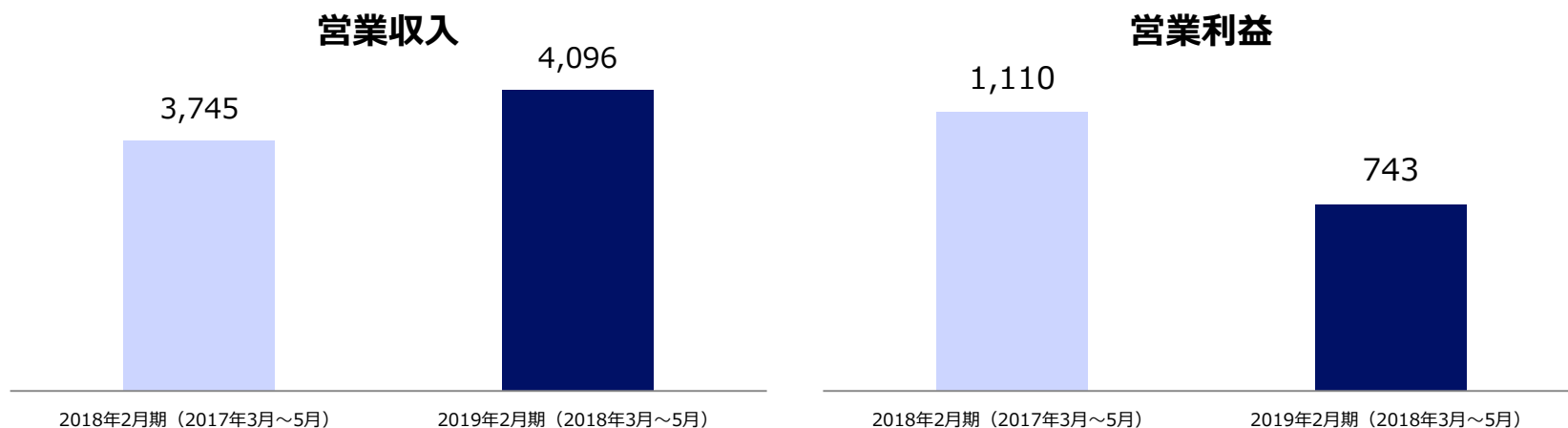
作品名	公開月	興行収入
名探偵コナン ゼロの執行人	2018年4月	84.2億円
映画ドラえもん のび太の宝島	2018年3月	53.2億円
映画クレヨンしんちゃん 爆盛！カンフーボーイズ 拉麺大乱	2018年4月	18.0億円
ちはやふる -結び-	2018年3月	17.0億円
ラプラスの魔女	2018年5月	13.5億円

東宝東和(株)配給作品（興行収入10億円以上）

作品名	公開月	興行収入
ボス・ベイビー	2018年3月	34.3億円

（興行収入は2018年6月末時点）

セグメント別業績【演劇事業】



(単位：百万円)

業績分析 (増減要因)

- 帝国劇場では、『Endless SHOCK』(3月公演)が全日程完売の大盛況、再演の『1789 -バスティーユの恋人たち-』(4月~5月公演)も連日の満席となる大入り。『モーツァルト!』(5月公演)も圧倒的な人気で完売するなど好調に推移。
- シアタークリエでは、山口祐一郎、涼風真世のコンビを迎えた日本初演となる『マディソン郡の橋』(3月公演)が幅広い客層に支持されて盛況。続く、『ジャニーズ銀座2018』(4月~5月公演)は全チケットが即日完売するなど、業績に貢献。
- 外部公演では、日生劇場で、鹿賀丈史、市村正親のコンビ誕生10周年となった『ラ・カージュ・オ・フォール 籠の中の道化たち』(3月公演)や『リトル・ナイト・ミュージアム』(4月公演)などのバラエティに富んだ作品を提供。その他、『メリー・ポピンズ』(3月~5月公演 東急シアターオーブ 5月公演 梅田芸術劇場)等も堅調に推移したが、原価率の高い作品があり演劇事業全体としては、増収減益。

演劇事業 -主要稼働作品-



2月～3月 帝国劇場公演
『Endless SHOCK』



3月 シアタークリエ公演
『マディソン郡の橋』

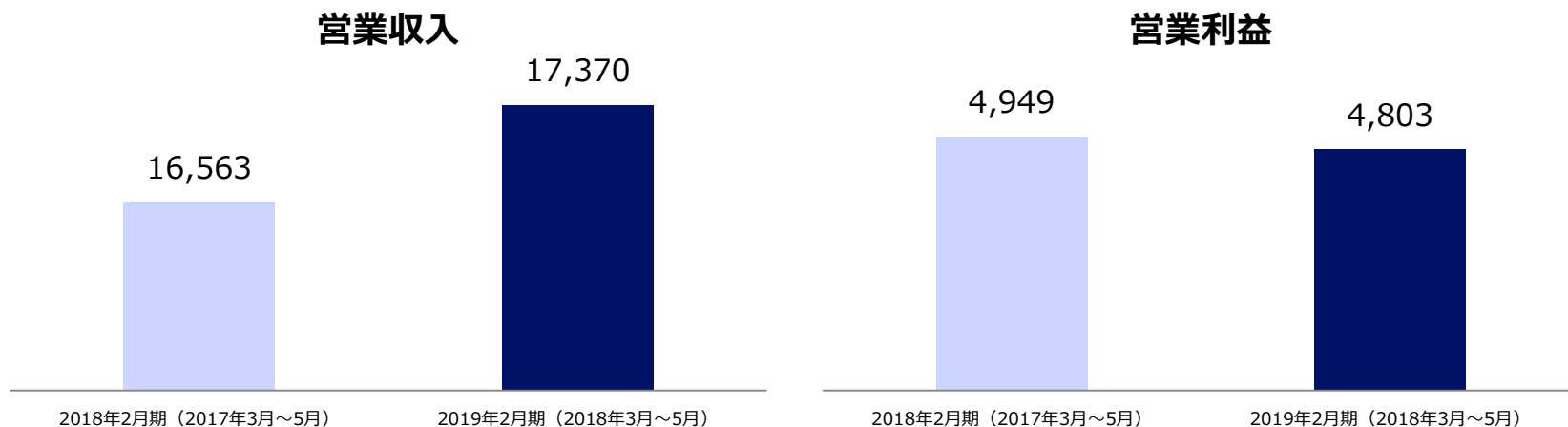


4月～5月 帝国劇場公演
『1789
-バスティーユの恋人たち-』



4月～6月 シアタークリエ公演
『ジャニーズ銀座2018』

セグメント別業績【不動産事業】



(単位：百万円)

業績分析 (増減要因)

- 不動産賃貸事業では、保有する全国の賃貸物件はほぼ空室なく高水準に稼働するも、日比谷シャンテ、有楽町マリオンのリニューアル工事等の影響もあり前期に及ばず、減収減益。
東宝スタジオは、当社配給作品の撮影やTV・CM撮影の誘致によりステージレンタルが順調に稼働。
- 道路事業では、建設技能者不足や受注競争の激化が続く中、技術提案力の強化を図り、積極的な営業活動で受注増に努めた結果、増収となるもわずかに減益。
- 不動産保守・管理事業では、(株)東宝サービスセンター、東宝ビル管理(株)が労務費や資材価格の高騰など厳しい経営環境が続く中、新規受注の開拓とコスト削減に取り組み、増収増益。
(株)東宝サービスセンターは6月1日より東宝ファシリティーズ(株)に社名変更しております)

映画 & 演劇 話題の待機作品



MOVIE LINE UP



8月1日（水）ロードショー

『ヒロイン失格』の幸田もも子による人気コミックス、遂に映画化！

恋に恋する女子高生・あゆはが、イケメンだけど冷徹な数学教師・弘光をおとすべく恋愛バトルを仕掛ける！

『センセイ君主』

原作：幸田もも子「センセイ君主」（集英社マーガレットコミックス刊）

監督：月川翔 脚本：吉田恵里香

出演：竹内涼真 浜辺美波

主題歌：TWICE「I WANT YOU BACK」（ワーナーミュージック・ジャパン）

©2018「センセイ君主」製作委員会 ©幸田もも子／集英社



8月3日（金）ロードショー

シリーズ累計発行部数1,500万部超の大人気コミック、待望の映画化！

‘個性’と呼ばれる超常能力を持つ主人公たちが、宿敵〈ヴィラン〉に立ち向かう！

『僕のヒーローアカデミア THE MOVIE ～ 2人の英雄～』

原作・総監修・キャラクター原案：堀越耕平（集英社「週刊少年ジャンプ」連載）

監督：長崎健司 脚本：黒田洋介

声の出演：山下大輝 三宅健太 岡本信彦 佐倉綾音 石川界人 梶裕貴

主題歌：菅田将暉「ロングホープ・フィリア」（EPICレコードジャパン）

©2018「僕のヒーローアカデミアTHE MOVIE」製作委員会 ©堀越耕平／集英社



8月24日（金）ロードショー

木村拓哉と二宮和也、二人のトップスターが夢の競演。

とある殺人事件を巡って、二人の検察官が互いの正義をかけてぶつかりあう――。

『検察側の罪人』

原作：雫井脩介「検察側の罪人」（文春文庫刊）

監督・脚本：原田真人

出演：木村拓哉 二宮和也 吉高由里子・松重豊／山崎努

©2018 TOHO/JStorm

STAGE LINE UP



7月～8月 帝国劇場公演
『ナイツ・テイル -騎士物語-』



8月 シアタークリエ公演
『ゴースト』



9月 帝国劇場公演
『DREAM BOYS』



9月～10月 シアタークリエ公演
『ジャージー・ボーイズ』

業績予想

■ 2019年2月期連結業績予想（2018年3月1日～2019年2月28日）

（%表示は、対前期増減率）

	営業収入		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 当期純利益		1株あたり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円. 銭
通 期	229,200	-5.6%	38,000	-20.1%	39,800	-18.2%	26,300	-21.6%	146.22

本資料の内容には将来に対する見通しが含まれておりますが実際の業績は様々な状況変化や要因により、見通しと大きく異なる結果となりえることがあり、保証を与えるものではありませんのでご了承ください。
また、本資料の無断転載はお断りいたします。

本資料に関するお問い合わせ

東宝株式会社

総務部 広報・IR室

TEL 03-3591-1303